

平成29年第4回(12月)みなかみ町議会定例会会議録第2号

平成29年12月1日(金曜日)

議事日程 第2号

平成29年12月1日(金曜日)午前9時開議

日程第1 一般質問

- ◇ 山田庄一 君 . . . 1. 農産物一大生産拠点化による農業立町について
2. 事業の継続と今後
 - ◇ 高橋久美子 君 . . . 1. 町長就任にあたりどのような町政に取り組まれますか
 - ◇ 小林 洋 君 . . . 1. 行政運営について
2. 公約について
-

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（17人）

1 番	高 橋 久美子 君	2 番	森 健 治 君
3 番	鈴 木 初 夫 君	4 番	石 坂 武 君
5 番	小 林 洋 君	6 番	林 誠 行 君
7 番	中 島 信 義 君	8 番	欠 員
9 番	阿 部 賢 一 君	10 番	林 一 彦 君
11 番	山 田 庄 一 君	12 番	河 合 生 博 君
13 番	原 澤 良 輝 君	14 番	高 橋 市 郎 君
15 番	久 保 秀 雄 君	16 番	小 野 章 一 君
17 番	森 下 直 君	18 番	林 喜 美 雄 君

欠席議員 な し

職務のため議場に出席した事務職員の職氏名

議会事務局長	高 橋 康 之	書 記	本 間 泉
書 記	田 村 勝		

説明のため出席した者

町 長	前 田 善 成 君	教育長職務代理	利根川 太 郎 君
会 計 課 長	中 島 直 之 君	総 務 課 長	原 澤 志 利 君
総合戦略課長	宮 崎 育 雄 君	エコパーク推進課長	高 田 悟 君
税 務 課 長	岡 田 宏 一 君	町民福祉課長	内 田 保 君
子育て健康課長	鈴 木 伸 一 君	生活水道課長	高 橋 孝 一 君
農 政 課 長	田 村 雅 仁 君	観光商工課長	澤 浦 厚 子 君
地域整備課長	古 川 文 雄 君	教 育 課 長	杉 木 隆 司 君
水上支所長	林 昇 君	新 治 支 所 長	田 村 良 一 君

開 会

議 長（林 喜美雄君） おはようございます。ただいまの出席議員は17名で定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

開 議

議 長（林 喜美雄君） これより本日の会議を開きます。

発言の訂正

議 長（林 喜美雄君） ここで、教育課長より答弁の訂正の申し入れがございましたので、これを許可いたします。

教育課長。

（教育課長 杉木隆司君登壇）

教育課長（杉木隆司君） 議長のお許しをいただきましたので、昨日の議案第45号のスクールバスの購入契約の締結についての中で、林一彦議員のほうからスクールバス更新前の車両の取り扱いについてという形でご質問をいただいて、説明が大分不足している箇所がありましたので、この場をかりて追加する形で訂正をさせていただきたいと思います。

まず、教育委員会のスクールバスの取り扱いにつきましては、更新前の車両につきましては下取りという形でなく落札業者に買い取っていただくというようなことで対応しています。具体的には、その車両を査定して見積もりをいただいて、みなかみ町有財産売買契約というのを結びまして、良い金額で買い取ってもらうように交渉しながら契約を結び、その金額につきましては一般会計のほうに繰り入れているというような形で、下取りという形でなく公有財産を買い取っていただくというような形で対応させていただいておりますので、その部分の補足がちょっと欠けておりましたので、すみませんが訂正させていただきたいと思います。

以上でございます。

（「議長、関連で、今の」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） 久保秀雄君。

15番（久保秀雄君） きこのうの答弁では、引き取ってもらって、その後の再利用はしませんと、廃車をしていただいています、こういう答弁をいただいていますけれども、そのところはどのようなふうな整理になっているのでしょうか。

議 長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） お答えします。

ただいまのは教育委員会のスクールバスということでございます。

きのう、廃車という話は、総務課で通常のワゴンタイプであるとか、乗用車タイプ、いろいろあるわけですけども、そちらについては購入するときに再販売というんですか、業者のほうから、受け取って、ただ廃車をしてくれということをお願いしているということでございます。

議長（林 喜美雄君） 久保君。

15番（久保秀雄君） 一つは、今、町が売却したものは再利用しませんよと、こういう縛りをかけてありますと、こういうことだと思います。そうすると、その縛りというのはどういう目的を持ってかけているのかなと。まだ使えるものを通常の世の中でいけば再利用したいという人がいればすると、これが一つの考え方なのかなと思いますけれども、なぜそこにそういう縛りをかけているのかが。その目的と、それと今答弁いただきました教育委員会は別ですよという形になりますと、今回のバスの扱いについてはどういう扱いになるのか、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） 当然下取りをして、下取りではないものですから業者のほうはその車を、実際にはもしかしたら乗れるかもしれないと。ただ当然、町とするともう償却期間を過ぎているという考え方を持っておりますので、それを相手方が販売されるとそれはそこで利益になってしまいますので、その業者が町の車を下取ったことによって利益を得ないよというのが総務課の考えです。

今回のスクールバスについてどういうことかというのは教育委員会のほうからお答えをいただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 教育課長。

（教育課長 杉木隆司君登壇）

教育課長（杉木隆司君） 今回のスクールバスの扱いにつきましても、とりあえず落札業者と交渉いたしまして、できるだけ高い金額で買い取っていただくような交渉はしていきたいというふうに考えております。

以上です。

（「その後の業者。再利用はしませんという答弁をしているわけだから」の声あり）

教育課長（杉木隆司君） スクールバスの再利用ということでしょうか。業者が引き取った後のということですか。

それは売買契約書を結んでおりまして、所有権の移転等ありますけれども、用途制限だけはかけております。適正な使用をお願いすると。具体的には暴力団関係・施設その他住民に不安を与えるような行為には供してはいけませんとか、そういった用途制限をかけた中で売買契約というのを結んで業者のほうに売却をしているということでございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 久保君。

15番（久保秀雄君） 今、教育委員会のバスの関係については売買契約の中で用途制限というか制限をかけていると。それから、総務課長のほうの答弁は、使用期限が切れたものであるから再利用しないと、こういう答弁だと思います。過去にも、前の町長車、四駆でありますけれども、あれは北海道かどこかからネット販売か何かで購入したものかと思います。昨日の答弁でも、町長、いろんな方法を考えていきたいと、こういう答弁をいただいております。

先ほどの総務課長の答弁でいきますと、耐用年数というか、使用期限というか、使用にたえられる状況が過ぎたから売却すると、だから再利用はしないんだと、そういう趣旨の答弁だと思いますけれども、その辺のこれからの町としての姿勢、方針というか、昨日の町長の答弁と今の総務課長の答弁、食い違っているかと思っておりますので、その辺のところはぜひ調整をしていただきたいなど、そんなふうに思います。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、久保議員のほうからご意見いただいた点は検討していきたいと思っておりますが、基本的にスクールバスのほうは町有の資産、例えば建物と同じような扱い方をしている、車のほうは要はリース契約だとかいろんなことがありますので、その辺のところは食い違っている点がある。それを一元のやり方をしていないので、その辺のところをまた勉強させていただきまして精査させていただきたいと思っております。どのようなやり方があるか、どういうふうにしていけるか、それについては後ほどまた議会のほうにお示しさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

議長（林 喜美雄君） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 本日の会議は、お手元に配付いたしました議事日程第2号のとおりであります。

議事日程第2号により議事を進めます。

日程第1 一般質問

通告順序4 11番 山田庄一 1. 農産物一大生産拠点化による農業立町について
2. 事業の継続と今後

議長（林 喜美雄君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問については6名の議員より通告がありました。

昨日3名の方の質問が終了しておりますので、本日、3名の方の質問を順次許可いたします。

初めに、11番山田庄一君の質問を許可いたします。

山田君。

(11番 山田庄一君登壇)

11番(山田庄一君) 議長の許可をいただきました。大きな項目で2点ほど、町長の見解をお伺いしたいと思います。

まず1点目の質問ですが、趣旨は、みなかみ町の農業を魅力のある職業とするため、個々の農家の支援と並行して、耕作放棄地や農地集約などの大規模集団化農地として土地利用を可能にし、経営効率化や新規就農者の参入及び育成しやすい環境を整え、あわせてICTを活用した農業の大規模化、集約化により自然農法、通常農法とあわせて野菜や果樹の先進地化を目指すということを1点。

それと、2点目として事業の継続と今後ということですが、主にインバウンド、とりわけ台湾事業と都市計画道路周辺を生かした若者世代エリアの整備について見解をお伺いしたいと思います。

平成27年10月にみなかみ町まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、今後5年間の産業振興の基本的方向、具体的な施策のアクションプランが示されました。その中に、みなかみ町の農業について、農地環境を守っている人の高齢化や耕作放棄地の増加によって地域が衰退する心配がされております。観光と農業の町をキャッチフレーズに掲げるみなかみ町としても、大きな打撃になり得る懸念材料となっています。

アクションプランでは、新しい農業の担い手育成や新規就農者を誘致、育成することの必要性とそのための環境整備、農業従事者の経営効率化に向けて農地集約や大型機械の貸出制度を検討するを充実させることで、若い人が農業に魅力を持ち、参入しやすい環境をつくる必要性が提案されています。

みなかみ町の農産物は良質な水や豊かな土、長年の経験に裏づけられた確かな技術によって高い評価を得ており、これらを継承するためにも若い世代の就農、育成は喫緊の課題であると思います。町主導による農業の担い手育成と新規就農者の誘致及び支援について町長の見解をお伺いしたいと思います。

議長(林喜美雄君) 町長。

(町長 前田善成君登壇)

町長(前田善成君) 山田議員の質問に対してお答えさせていただきます。

まず、町の現状と考え方をちょっとお話しさせていただきます。

新しい農業の担い手育成や新規就農者の誘致、育成の必要性についてですが、担い手の育成、新規就農者の育成は重要であると考えております。また、新規就農者や企業等の参入の相談は年間を通じていろいろと町としては受けています。

ちなみに、新規就農者は平成26年度が4人、27年度が3人、28年度はゼロという状況です。そのほとんどが家業を継いでいるというような状態だと思われます。

また、担い手である認定農業者は約80の経営体がありますが、その中で農業法人の数は9団体、平成28年度12団体と、3団体ほど26年よりもふえています。また今、総合戦略の中というお話がありましたが、その総合戦略の中に新たな農業法人の設立について提案をされている記述がありますが、町としては既存の担い手の活用という方向で今考

えているところです。

また、みなかみ町は広大で、冬季の積雪といったような農業者には大変厳しい気象条件、また地域の環境、そういうものが多様化している地域です。なので、農産物を生産するに当たって適地適作、そういうもので、地域にとってその適地適作を行うことはとても重要な課題だと思っています。そのために年間を通じて雇用形態を農業経営者が成り立つようにするにはどうしたものがあるのか、例えば複合経営するのがいいのか、それとも少数多品目にするのがいいのか、そういうものを考えつつ、農業雇用というものを今の現状の制度の中でできるか、十分活用できるかどうか、そういったものを勉強しながら、新規就農者の支援、独立、自営就農のための研修会、経営開始時の資金の支援、6次産業化などの支援、そういったものに努めていきたいと思っています。

また、農地の集約についてですけれども、27年度から農業委員に加え農地利用適正化推進委員というものが新たに設置されました。それは、きのうも条例でお話しさせていただいたように、その仕事の中に農地利用の最適化の推進に対する事項というものが必須事務とされました。平成28年4月には、うちの町としては新しい体制で農業委員会がスタートしています。ことし、管内の例えば沼田、片品、川場でも農地利用の最適化という業務が開始されようとしています。

この農地利用の最適化の業務、その1つ目としては担い手への農地の集積・集約化。これは農地の出し手、受け手の掘り起こしを調整する、また農地中間管理機構、これ群馬県の農業公社になると思うんですが、そこの連携というのが必要になってきます。

また、2つ目としては、耕作放棄地の発生防止、解消で農地の利用状況を調査する農地パトロール。平成28年度の利用状況の調査によりますと、再生可能な荒廃農地は260ヘクタールと聞いています。また、耕作放棄地になっている農地の所有者への働きかけ、活用などの相談がそれに当たっています。

3つ目としては、新規就農、新規参入の促進。新規就農者、参入者への相談とか、農地の確保に向けて所有者、地域の調整をするということが仕事になっています。農業委員会では農地の利用状況の調査を行い、再生可能な耕作放棄地については、その所有者の意向を聞き、農地利用適正化推進委員が農地中間管理機構と連携して農地の集約を進める取り組みが始まっています。約4ヘクタールが農地中間管理事業として集積される予定です。

この推進委員による適正化の取り組みは今始まったばかりなので、その制度の様子を町としては見ていきたいという考え方に立っています。

また、農地利用適正化推進委員の皆さんには、町と農業委員の仲立ちということで、期待し、農地の集積、そういったものの中間役になってもらうために町としてもそれを活用させていただきたいという意向を伝えているところです。

また、農地の整備による集団化ですけれども、平成28年度には1.2ヘクタールが担い手に集積され、ことし29年度は3ヘクタールが受け手の認定事業者に貸し付けられる予定です。農業者が国県からの補助金を活用して、耕作放棄地再生利用事業として、平成21年度からですが、約3ヘクタール、再生作業を行ったところです。

山田議員のご質問のテーマ、農産物の一大拠点化というまでにはいきませんが、近

年では町内で2カ所の圃場整備が進んでいます。今後は、農地中間管理事業に取り組む中で担い手に農地の集積を進めるための農地整備、また農地中間管理機構である群馬県農業公社と連携する場面も多く出てくると思っています。

また、大型機械の整備、これ、農業施設は、農業機械の整備については現行制度において相談を受けている状況で、国の支援措置が受けられるかどうか今相談に応じているところです。

また、若い人たちが農業に魅力を持って参入しやすい環境づくりの必要性については承知していますので、国の経営体育成支援事業などによる大型の農業機械の整備については、稼働期の集中化などから、個々の経営体が自分の経営環境に合った個々の機器を整備できるよう支援していきたいと思っています。また、その支援する制度、そういうものについても調査・研究を進めていきたいと思っています。

それから、農業のIT化ですが、山田議員が言われている日立システムだと思っんですけれども、それについては今……

(発言する者あり)

町長(前田善成君) では、今のところまでで山田議員への1回目の答弁とさせていただきます。

議長(林喜美雄君) 山田君。

(11番 山田庄一君登壇)

11番(山田庄一君) 大体、一生懸命農業のためにやっているという、打ち合わせの段階で町が一生懸命取り組んでいるということも聞きましたし、現状は非常に難しいと。難しいというのは、農地集約というのは難しいと。要するに、みなかみ町は中山間地ということで、大規模農業をするための農地集約というのは平地、平たん部に比べて非常に難しいというのはわかっていながら聞いているんですけれども、ただ町として、例えばきょう参与来ていただいていますけれども、みなかみ町まち・ひと・しごと総合戦略ができましたと。その中で農業の振興ということでいいますと、早目にこれやらないと、今、農業をやっている担い手が、新規就農者26年に4人、27年3人、28年度ゼロと、これは家業を継いでいることかなと思うんですけれども、非常に農業を継いでいく人がいなくなってくると。

そうすると、考えられることは、これも書いてありますけれども、新しい農業をしたいという人を町に連れてこないとなかなか農業従事者の人口というのはふえないということが書いてあります。そのために今回は町として、ここにありますが、岡山県西栗倉村の、村として農地を主導して集約して、そこに就農できるような環境を整えるというような思い切ったことをやらないと、この町もなかなか農業が継続されないんじゃないかという心配の中でやっているわけなんですけれども、それを農業推進委員さんが今、一生懸命農地集約のためにやっていると。

きのうの条例にもありましたけれども、三万九千幾らの報奨金、報奨金という言い方おかしいのかな、それができたときに最大でその金額を払うというような話になっていますけれども、これは逆によく考えるとその人たちにおんぶにだっこ、お願いするしかないかと。町としてその未来図、この町の将来図をぼんとでかいこと掲げて、それに向かってお願いしますよというようなことをしないと、なかなか、推進委員さんお願いしますと言うと、き

のう同僚議員が言っていましたけれども、それは場所のいいところをやる人はいいかもしれないけれども、場所の悪い人だっているわけだから。そうすると一生懸命になる人もならない人も出てくるわけだから、その辺というのは、町がこれをやるんだということを大きな目標として掲げて、それに対してご協力をお願いしますということをやっていないのかなか、まとめましょうといったっていかないのかなと思います。

ということで、農業をこの町の主産業の一つとして再生するために、町としての総合プラン、農業プランみたいなものを描かないとだめだと思うんですけども、その辺のところというのは参加がご苦労いただいた冊子が出てから検討はしたことがあるんですか。こういう組織をつくって、こういうことでやりましょうという、その組織というのはやったことあるんですか。

議長（林 喜美雄君） 農政課長。

（農政課長 田村雅仁君登壇）

農政課長（田村雅仁君） お答えします。

町としての農業プランにつきましては、農業振興地域計画というのがこの間、見直しをされているところがございます、その中では若干、後継者ですとか集約の話が書かれているかと思えます。実際に、山田議員が言われる新規就農者、育成のプラン等については今のところは検討中でございます。

前回の、産業観光常任委員会の中では今後そういったプランを立てていきたいというお話はさせていただいているところがございます。

以上でございます。

議長（林 喜美雄君） 山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） 農政課長の答弁とすればそうだと思うんです。岸前町長は、町長じゃなくなったけれども、なったときには、これはもう真剣にやりましょうということで考えていました。

今、農政課長が言ったようなことは粛々と検討中、検討中というのは、行政でいうと検討中なんでなかなか進まないというのはよくわかりますけれども、これはやっぱり町長がこの町の農業を再生させるんだという強い意志のもとで、その農業プランというか、それをしっかりとつくりましますよということをやらないとだめだと思っているので、せっかく新しく意気込んで町長になったんですから、その辺のところは町長は新年度予算に向けて、これはもうやりますよということは言ってもらえるとありがたいんですけども、どうですか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、山田議員おっしゃられていることというのは、恐らく農業法人のホールディングスというような、前に産観の、私が議員時代に勉強した、そういったことを町長はどう思っているんだと、それについて答えろというような質問かなというふうに察しています。

産観の中でもちょっともんでいた部分については、やっぱり農業が農業ということだけ

ではなく例えば産業として考えたときに、例えば私たちがもともといた建設業、小売業でもそうなのですが、経営者のやっぱり資質というものに対して経営ができてくるということがほとんどだと思うんですね。

だから、農業をやっているものをつくっているからだけだとなかなか難しいけれども、それを売り先をどうするか、例えば経営をどうするか、そういった部分についてはやっぱりかかわってくるのだと思っています。それについて、例えば農業の専門の人たちにそういうことをやってもらうのがいいのか、それともちゃんとした経営ができる人たちにやってもらうのがいいのか、いろんなそういう複合的な要素が入ってくるのだと思うんです。

そういった中で考えると、例えば物をつくることもそうだし、売ることもそうだしということの必要性というのが出てくるのかなど。そうなったときにそのホールディングスみたいな組織というのは一つ考えていく必要があるだろうし、この町にとってやはり観光が主の産業ですが、それを守ってくれているのが実は景観をつくっている農業だと思っていますので、その辺については今お話しさせていただきましたが、大きな話としては、そういう部分についてどうやったらそこにつながっていくか、どうやって成長設計できるかとか、そういったものというのは、今度、行政としては必要になってきます。

そのために例えばどんな調査が必要になる、どんなことがこれから必要なんだということや、それをまず、その辺のところの掘り起こしをしていかないと今言ったものに到達していかないとこの本音のところだと思うので、その辺について、まず確実にできる方法はあるものがあるか、あとどうやったらそれが進むかというものについて調査・研究はさせていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

議長（林 喜美雄君） 山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） 同じことの繰り返しになっちゃいますけれども、調査・研究というのは必要だと思います。けれど、これはもう2年たった中で、じゃその調査・研究がどのくらいあるかというはまだ新しくなったばかりだから打ち合わせしていないので、いや、これぐらいのことやっていますよというのがあるかもしれないので、それはそれで、新町長、前田町長に進めてもらいたいと思います。

それは本当に気持ちがないとなかなか進まないと思いますのでお願いしたいと思いますが、もう一つ、一大農産物の生産地としてということの中で、さっき出ましたけれども、IT、主に日立のことなんですけれども、この日立も私が産観の委員長のときに前田議員がそういう人脈を使いながら話をつないできたという経過の中で、日立と3年ぐらいですか、農業ICTによる地方創生モデルをみなかみ町と一緒にやりたいということで、2年間のうちに、相互訪問みたいな形で東京に行ったりみなかみ町に来てもらったりして、双方で十二、三回は打ち合わせをしてきたと思います。

最終的に、隔離された建物の中でコンピューター管理の中で、当初は野菜をつくりましょうと、野菜生産地にしましょうと、農業再生に向かってやりましょうという話の中で進んできました。最終的にはイチゴを通年で栽培する。夏イチゴというのはなかなか品物が

ないし、それは商品価値が高くなるので、できたときには私たちが流通組織を使って、日立がいい品物ができたときには全部面倒見ますよということで、これは岸前町長も合意した中で日立の本社で、副社長が出てきまして記者発表ということで日経新聞に載りました。

その後、実務に入った時点で非常に金額というか、当然その経費がかかるのでその辺のところの検討をする中で、みなかみ町としてはどうするか、日立はの中でどういう役割をするのかというような問題が起きたときに、なかなかその話が進まなくなってしまったという経緯があります。これは町長も理解していると思うんですけども。

28年度、じゃ予算難しいという話の中で、29年度にかけて検討しようという話だったんですけども、その辺のところのその後の経緯というのはどうなっているかちょっと教えてもらえますか。

議長（林喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、山田議員が質問された内容は私も同席していたのでわかっています。

一応その経緯ということで説明させてもらおうと、平成28年3月に高付加価値のイチゴの通年栽培に関する提案をいただいて、その提案の中で設備の施工から栽培、また販売管理まで幅広くそれを日立のほうで支援していただけたという話で始まったと。

最終的には初期投資として6,000万、年間3,000万ほどのお金がかかるよということで示されてきて、その試験的な栽培でその栽培面積を半分にしても5,800万で年間120万というお話があったと。これだと実験なので補助金ももらえずに、共同事業体である日立のほうからは費用を負担する考え方はないよというお話があったので、急いでそれを整備する必要はないということで通常のイチゴの栽培に切りかえていこうと。夏場の冷房での温度コントロールするには少しまだ無理があるところが見受けられるんではないかというのがみなかみ町の最終的な判断で、予算をつけるというところに至らなかったということは聞かせていただいています。

それで、その前の前代の話にもなるんですが、ちょっと山田議員が誤解しているので話をさせてもらうのは、ちゃんとした話を酌み上げるとするのは、私はもともと理系なので、調査・研究というのは文系の言う調査・研究とは違うんです。やるためにどうするかということをしっかり理論づけていかなきゃいけないので、それで今、農業法人のホールディングスというので、成功していたり、ちゃんとした事例というのはいんですね。なので、そこをちゃんとするためにどうするかという勉強をしてきて、その中には今こういうITだとかそういうものというのは含まれてくるし、そういうものを活用していかないとなかなか、高齢者が多くなっている農業の現状の中で、就農してもらうのはそんな簡単ではないものですから、例えば素人の人がどうやってそこに入っていかるときにこういうものは必要になってくると思っていますので、その辺については、自分自身としてこれについての必要性は十分に感じているところなので、それについて勘違いしないようにお話をさせていただきたいと思っていますので、これについても、先走りの話をさせていただければ、今いろんなもの見える化というものがやっぱり進んでいると思っていますね。

ITというのは、例えば農業だけではなくいろんな産業で今、働く人の高齢化と、あと

働く人間が少なくなっているという現状があります。中で、ITはこれからの、5年、10年先の産業を支える十分なツールになっている。そのツールになっていくと予想されるものをやっぱり取り入れて、就農、また付加価値をつけるというものに対して考えを入れていかななくてはいけない産業というのは、農業だけではなくあると思います。

また、その中で一番高齢化が進んでいる産業が農業だと私の中では認識しているので、そういうものを取り入れていくこと。また、どんなことが必要で、どんなものが必要というのは、その場所、例えばやっていること、種類、そういうものについて変わってきますのでそれを精査しながら、どういうものがあるかというのはやはり勉強する必要があるんだらうと、調査していく必要があるんだと思っていますので、それについてこれから進めていくという考え方は自分の中で思っています。

新年度予算についてというお話なので、今言ったようにそれについてどういうことができるか、どんな方法があるか、また今言ったようにやるためにどうするかという話になってきたときには、今、山田議員が言うように、その調査・研究というのは本当の意味で調査・研究になってくるんじゃないかなと私の中では考えていますので、そういった答弁をさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） 山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） ただやれ、やれと言っているのではなくて、今、町長が言ったように理論とかその積み重ねとか検討というのはわかりますよ。そんなのは後ろに優秀な課長さんたちがいるわけだよ。言っているのは、町長、町のトップがやりますよということを明確にして、そのために例えばアドバンス上げたときに、しょうがないなと思ったってやらなくちゃならないと思う人はちゃんとやります。その辺のところの意志を出してほしいと言っていることなんで、当然その中で理系の町長なんだから理論とか積み重ねとかで、そんな中で、一緒になって入ってやればスピードアップしてちょっと速くなるんじゃないかなと思いますので、取り組みをする、しないの、最初の取っかかりはするかしないかの問題だと思うので、その辺は若い町長なんだから思い切ったことをやろうということ、意志をはっきりしてやらないと今みたいになかなか進まないよという話なので、その辺はよろしくお願ひしたいと思います。

本当に検討とか勉強していると5年とか10年たつのが早くなっちゃうし、そうすると農業する人が、今中心になっている人が、多分の話だけれども、60過ぎています。それが70になったときに本当にできなくなっちゃうという、そうしたら後継者どうするんだというのをそのときになったってだめだと思っているので言っているの、頑張ってください。

日立の件に関して言えば、難しく考えるとそうなんですよね、金がかかることだし。ただ、日立の本社って会社で2万人ぐらいいると言っていましたよね。1万だけ。1万人いるということは、あそこは本社が品川区ですから、ここから行ったって1時間半ちょっと、電車で行けばね。そんな近くの中に、例えばみなかみ町と協力をしましょうということで事業を進めていたときに、農業だけ考えると確かにそれは大きな金がかかることだか

ら、それに対してランニングコストもいろんなことも言われたので町として引いちゃった部分があったのかもしれないけれども、例えばの話でちょっと聞きますけれども、1万人のみなかみ町とかかわりのある人がそこにいるといったときに、観光課長とすれば何か観光の面に関してアクションを起こせるんじゃないかと。

打ち合わせに行ったときに向こうの広報部長さんにも、みなかみ町、観光と農業の町なんで、これからは観光の面にもご協力をいただくために、時間があつたら観光課長にも挨拶に来ていただきますよということを言ってきたんですけれども、観光の面で考えたときに1万人のビルの中に人がいるというのは魅力あると思いませんか、観光課長。

議長（林 喜美雄君） 観光商工課長。

（観光商工課長 澤浦厚子君登壇）

観光商工課長（澤浦厚子君） ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

企業としては大変大きくて社員もたくさんいらっしゃるということであれば、そこに観光の情報発信をしていくということは十分考えられることではあると思います。

議長（林 喜美雄君） 山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） 宮崎課長のところはふるさと納税やっていますし、企業がするというのも考えられませんか。

議長（林 喜美雄君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 宮崎育雄君登壇）

総合戦略課長（宮崎育雄君） 企業版ふるさと納税に関するご質問かと思いますが、可能性としては十分あると思います。既に今、町がおつき合っている企業等においてもそういったお話は出るんですけれども、企業版ふるさと納税の場合には何をするかということが明確にならないとなかなか国の許可もおりないということもありますので、何をするかということを明確にして取り組んでいくということが大切だというふうに思っています。

議長（林 喜美雄君） 農政課長よりただいまの発言の訂正をしたい旨がありましたので、お願いします。

農政課長。

（農政課長 田村雅仁君登壇）

農政課長（田村雅仁君） 先ほど担い手の育成の中で、産業観光常任委員会のほうにお話をさせていただいているプランがあるという、プランを検討中であるということでプランという言葉を使ったんですが、そのときの資料の中では担い手育成経営転換等支援事業を創設、検討したいということでお話をさせていただいているということで、プランという言葉は含まれていないということで訂正をさせていただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） それでは再開します。

山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） 今、突然に聞いて申しわけなかったんですけども、要するに、こういう話があったときに一つだけ、例えば今言うと農業のことだから農政課だけになっちゃうんだ

けれども、農政課だけで考えると、その初期費用が6,000万かかる、7,000万かかるといったときに、当然それはどこかの、国の補助とかいろんなことを考えるんだけれども、そこだけしか考えられないことだと思うんです。

そうすると、農業の育成に関してもそうなんだけれども、当然、主となるのは農政課になりますけれども、その中に大きな金額が動いてくるときには、役場の中っていろんな補助を引っ張ってくるのが上手な人がいっぱいいるわけなんだよね。だから、そこだけで検討するんじゃなくて、検討するんだったら役場全体で、その中でいいアイデアを持っている人がいるかもしれないのでそういう検討をしないと、せっかくいい話があってもなかなか実となってしかないということがあるかなと思うんです。

それは、今後もうちょっと大きな話が仮に来たとしても、そういうのはいろんな連携の中でやるということを役場は言っているんだから、それはちゃんとした連携の中で進めたほうがいいかなと思います。そうすると、片方だけで検討していて、これはだめだからといって、そこで話が終わっちゃうということはないかもしれないので、それは町長、後で検をお願いしたいと思います。

ということで1点目の質問を終了したいと思います。

次に、事業の継続と今後についてということで通告を出してあります。インバウンド、特に台湾事業に関して、これは24年に当時の産観の皆さんがまず台湾をやるぞと言ってから5年たって、当時ほとんど台湾からのお客さんなかった部分で、28年度実績で九千ちょっとの人がみなかみ町を訪れるということで、継続された事業の中ではしっかりとした取り組みをしているのかなと思います。

みなかみ町だけの評価じゃなくて、日本の自治体からも結構みなかみ町の取り組みというのは注目されている部分があります。台湾での知名度というのも当然、ほかの日本の自治体なんかよりも非常に大きいかなと思いますけれども、これが要因の一つとすれば、町全体で取り組んでいるということもありますし、その中で職員が例のない派遣をされていると、台南市の政府のほうに派遣をされているということで、これは非常に効果があると。ほかの日本の自治体からもやりたいという話があったとしてもこんなことなかなかできないということで、みなかみ町は特異な存在かなと思っています。

これはもう職員が行って4年で、きのうの石坂議員の質問じゃないですけども、派遣されているところが、ずっと行っていると、町長の答弁の中では、本来は町に帰ってきて町の業務をやらなきゃいけないと、それが一番いいんだらうというような話がありましたけれども、このことに関して言うと、これから5年後、8万人を目指す、その8万人のインバウンドの中で台湾から来るお客さんというのは非常に大きなウエートを占めているので、それを継続するためには職員の派遣というのは、今、阿部真行君が行っていますけれども、この位置というのは非常に重要な位置づけになっていると思います。この辺のところを、4年ということも考えて町長はどのように続けていくのかという考えをお聞きしたいと思います。

議 長（林 喜美雄君） 町長。

町 長（前田善成君） 答弁書を用意してあるんですけども、かいつまんで話をさせてもらいます。

それこそ議員の皆さんのおかげで台南との関係というのはできていると承知していますし、今、みなかみ町との関係というのは県以上に、どこの県よりもみなかみのほうが台南については強いと思っています。

その一番の原因というのは、今、山田議員がおっしゃられたように、うちの町から派遣されている職員の阿部さんが現地で行った活動、また現地での人間関係ですね、それについてやってもらっていること、それと、うちの町の業務以外でやっていただいている部分について、皆さん、そのお人柄、またやっていただいている業務の内容、そういったものをつながっている部分が大いにあると思っています。私自身は今、このインバウンド事業の中で、できたものをやめるとかそういう考え方はありません。行政の継続性というのは十分承知しています。

ただ、人がかわると考え方が変わったり、同じものを見ていても同じ目線でなかったりするところがありますので、その辺についてイコールかといったらイコールじゃないかもしれせん。ただ、そういうものの中で、今、人員が確かにうちの町についても少ない、足りないと言われていています。なので、今、その阿部さんが築いてくれた、職員として向こうに行って築いてくれている、顧問としてそういう称号もいただいている中で培った人脈をみなかみ町として活用させていただいて、それで新しい展開をしていけるということは今模索したいという話はさせていただいています。

なので、きのうも言いましたが、ただ財布を締めるとかただ人員を削減するということがなくて、使うところとやめるところ、しっかりそういう判断をしていきたいという話をさせていただいていますので、それについて、ちゃんとした理由だとかちゃんとした方向性は出していきたいと思っています。

山田議員、ずっと勘違いされていますので、私、やらないと言っていないですよ、農業のことについて。だから、そういうことをやるためにどうするかという話をちゃんとしているので、ただアドバルーンでやって、やめるというんじゃなくてやるためにどうするかということのほうが大事だと思うんです、ここで言うことは。だから、やりますと言ったままで、よく検討しますと言ったままでそのままおざなりにするのではなくて、今言ったようにホールディングスをつくるためにどうするかという話をちゃんとお話しさせていただいているので、そのために進めるにはどうするかということだと思っています。やるためにどうするかをちゃんとこれから考えていきますよという答弁をさせていただいたつもりなので、その辺はちょっと勘違いされないようにお願いします。

議長（林 喜美雄君） 山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） 全然勘違いなんかしていません、そう思っていますから。

11月9日に阿部真行君の結婚式がありました。私も行って来たんですけども、そのときに、直属の上司とか部署があって、そこの所長さん、こっちで言うと部長さんみたいな感じの人かな、もそうですし職員の方もそうなんですけれども、今みなかみ町がこれだけになっているのは真行君のおかげだと。真行君をもう少し、体制が変わったからと。実を言うと体制が変わったことで非常に心配していましたよ。台湾事業もやめるんじやな

いかというようなことは言っていませんでしたけれども、そういう心配の中で、阿部君がいなくなると非常に困ると、社交辞令じゃなくて困るんだということで、ぜひ新しい町長も真行君をもう少し残してくれというようなことを言っていました。

その中で、別におどしたわけじゃないんですけれども、情報が出なくなるおそれがありますよと。実際にそうだと思うんです。さっき町長言ったけれども、交流というのは人と人とのつき合いの中の信頼の中で成り立っている部分が非常に多い。これは台湾だけじゃなくて、今、議会のほうで一生懸命やっている三宅村もそうですし、きのうの報告の中でもあったけれども、非常につき合いが短い中でそれぞれの議員さん、個人個人で信頼関係を築いて、それが町として村としてのつき合いの中で非常に役立っていると。これは交流の中の基本だと思いますし、きのう町長が誰かの答弁の中で言っていた環境を整えると。みなかみ町が好きなんだという、ここに住んでいる人が好きなんだから、好きじゃないと来てくれないという、そういうこともあるかと思いますが、そういう個人個人の努力というのは、台湾とか三宅とか、それがつながって大きな交流につながっているというのは、実際にやってみて感じますし、それは必要なことだと思いますので、台湾から今、職員を引き揚げちゃうと、非常に、やっていないという、勘違いしているとまた言うかもしれないけれども、それは心配して言っていることなので、非常にマイナスの影響になると思いますので、ぜひそんなことがないようにというか、それもそうなんですけれども、逆に言うと、真行君5年行って、職員であるのでその辺のところの難しいところももちろんありますので、どうでもやれという話ではなくて、その辺もよく考えてもらいながら進めてもらえればと思います。

最後ですけれども、岸前町長と3月の一般質問で話をしたときに、都市計画道路ができました。その都市計画道路の周辺に若い世代が住む、例えばそのエリアを整備する。何でかという、住むところ、アパートというのが非常に少ないので沼田に行っちゃっていますよと。しゃれたアパートを町営として建てて、その辺のところでは若い人が流出しないようにしたらどうですかという話と、若い職員がなかなか意見を言っても上に上がらない、反映されないという話を聞いたときに、その話をしたときに前町長はすぐ職員を限定して集めて意見交換会を開いたということがありました。これはちょっと総務課長のほうが詳しいかなと、その辺の経緯。やった経緯というのは総務課長が知っているので、ちょっと総務課長に聞いてもらえますか。

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） 山田議員から3月の定例会のときに総務課長にというお言葉をいただいて、そういう発言があったというような記憶がございます。その発言をいただいて、5月に、新町みなかみが発足した以降に採用された職員21名、対象者22名だったんですけれども、参加者は21名と意見交換を行っております。

特にテーマを決めると余り発言が出ないかもしれないということで具体的なテーマは決めなかったわけなんですけれども、みなかみ町はどういうところかという質問をしました。それと、うちの町に足りないものは何かということ、その2点だけは聞きました。

その中のお答えとしては、どの方も、自然が豊かでいろんな観光や体験ができるところ、東京から近いというところですね。先ほどおっしゃったとおり大型の商業施設がない、それから今、山田議員がおっしゃったようにアパートが少ない、それと人が歩いていないというお話、意見がありました。

その中で、先ほど言ったように自然が豊かだということなんですけれども、意外と複数の方から住みやすい町だという意見がありましたので、この意外と住みやすい町という答えが出てくるのはちょっと私も、反対にそれならばもう少し何かやり方があるのかなというのをそこでは考えただけなんですけれども、ただ、その後ちょっと、政策としてどんな形でそれをやっていくのかということまではまだ至っていないというところでございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 山田君。

（11番 山田庄一君登壇）

11番（山田庄一君） 若い人の意見が組織の中だからだんだん上に上がって行って、最後に上に届かなかったということが今までもしかしたらあったかもしれないです。だけど、若い人の意見というのは、やっぱり若い人が住むエリアをつくるためにはとか、この町を今後いい町にしていくには、継続するにはぜひ必要だということだと思うので、これ、早速やってくれた岸町長がいなくなった時点でかわって来た町長なんで、これはもうぜひ継続して、また何回か意見交換をした中でいい町にするために頑張っていただきたいと思います。

終わります。

議長（林 喜美雄君） これにて11番山田庄一君の質問を終わります。

通告順序5 1番 高橋 久美子 1. 町長就任に当たりどのような町政に取組まれますか

議長（林 喜美雄君） 次に、1番高橋久美子さんの質問を許可いたします。

高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 1番高橋久美子、議長より許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

2日目の一般質問ということで質問が多々重なることがあるかと思いますが、ご了解いただきましてよろしく願いいたします。

質問は、町長ご就任に当たりどのような方向で町政に当たるのかをお聞きします。「町民の生活が第一」をスローガンに掲げ、当選され約1カ月がたちました。この間、私も多くの皆様から町政について、今後、町の方向性などのいろいろな角度から聞かれました。そのことを中心にお聞きしたいと思います。

11月号の町の広報の就任のご挨拶の中で、最終目標は、「みなかみ町を愛し、子供から大人まで笑顔の絶えない、活気あふれる町」にすることだと、そのために喫緊の課題と

して、「人口流失や地域活性化という問題を、早期に解決していく」と述べられています。

現実的には、町は27年度にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、31年度をめどにまちづくりを進めているところでございます。ことし6月にユネスコエコパークの登録となり、本格的にさまざまなプランが走り始めたところです。まちづくりのど真ん中にエコパークを据え、みなかみ町の地域創生を図るという基本理念は行政の継続上からも変わらないという認識でよろしいでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 高橋議員のご質問にお答えします。

まず、まちづくりの理念、これは今、高橋議員がおっしゃられたように、きのうも何度となくお話しさせていただきましたが、町民が主役であると、町民の皆さんの生活が第一だと、皆さんに寄り添うという話をさせていただいています。そのためにどうするかというお話をさせていただいています。一番恐らく私が皆さんにお話しした中で言っているのは、ここに住んでいる人たちがこの住んでいることに対して誇りを持ってもらいたい。みなかみに住んでいるよ、みなかみってすごいでしょうという話をしてもらうためにどうするかということを考えていきたい。

それは何だといったときに、お話ししたようにヨーロッパのブランド品と同じだと。ブランド品というのは、一見様の人にはヨーロッパでは売らないですね。幾らお金があっても、その人の資質だとかその人が生きてきたこと。それで一番は、ブランド品が持つ人を選ぶ、来ていただける人を選ぶぐらい、やっぱりその価値を自分たちで上げている。自分たちが自分たちの住んでいる町、その地域の価値を上げていく、そういうような方向で町政を、皆さんがそう思えるような町政にしたい。これが大きな目標です。

だから、最大限大きな目標を上げたのがそういうことで、それなので、みなかみブランドというのを何度も、みなかみ町のブランドをつくるんだよ、みなかみブランドをつくるんだよというお話をさせてもらっています。ここが一番のところだと思っているんですね。

そのみなかみブランドをつくるためにどうするかということを考えていくと。その中に例えばエコパークというお話もあります。じゃ、そのエコパークを例えば中心に考えます。さっき山田議員の質問に対してもそういうこととお答えしましたが、同じことをやっても、人間、目線だとか考え方、また生きてきた環境だとか、そういうところは違ってきます。全く同じことになり得るわけがないですね。その辺のところは個性だと思うんです。だから、岸前町長が行ったものは、岸町長の個性だし、私は私の個性というのがあります。その個性を生かしつつ新しい町政というものをつくっていく。

じゃ、基本的にはみなかみブランドをつくる時にどうするんだということ、ずっとお話しさせていただいています。これ、世界一きれいな山があって、世界一透明度が高い川があって、そういうものを生かして、そういうものを自慢して、またここにはもう一つ歴史があるというお話もしました。中国の後漢書に載っているようなそんな古い、千年前の書物に載っているようなそういう歴史がある町、そういう町の一つ一つの物語、それこそ資

源ですよ。そういうものを一つ一つ丁寧に表に出してきたり、そのことについての価値、そういうものを説いていく。やっぱり価値があることをちゃんと話さないと価値を認めてもらえないというところがありますので、そういうものをしっかりつくりながら町をつくっていく。それが恐らく皆さんの幸せになることになるんじゃないかと。

これ、恐らく抽象的な話になっています。なぜ抽象的なことになるかという、人口流出、じゃ一つの原因でそれがとまるか、とまらないです。いろんな要素があります。そのいろんな要素を一つ一つ洗い出していくという作業をしないといけないんだと思います。

よく言うんですけども、原因を今のところ追及できていないんです。現象だけは見えているんです。だから、その現象を、ちゃんとどういう現象がどういう原因でできているかというのを一つ一つ結んでいかないと解決できていきません。その洗い出しという作業をするために調査、調査という話をさせていただいています。だから、行政文言でいう調査ではないと自分では思っています。

一つのを解決するためにはいろんな要素があります。その中で原因を必ず断っていくことによって、できる。できない原因をなくせばできるしかなくなりますから、そういう意味では、必ずそういうふうな方向を自分たちで出して、その方向に向かっていくための方法としてはどうするかといったら、できないものを一つ一つ丁寧になくしていくことしかないと思っていますので、その意味でそういうお話をさせてもらっているのが、ちょっとしたことを一つ一つ、こつこつと直していくというようなお話を何回もさせてもらっているところです。

答弁になっているかどうかというのはあれなんですけれども、私が考える、今、高橋議員に対しての回答としてはこれが一番ベストではないけれどもベターかなと。自分の気持ちの中では一番そういうことをやっていきたいというお話をさせていただいて、まちづくりの理念に対しての回答とさせていただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） 今お答えいただきましたけれども、エコパークを中心に据えながら、その中でみなかみブランドというものをしっかりと打ち出し、またその中でいろいろ要因というのですか、そういうのを洗い出してさらに進めていくというようなことで捉えさせていただきます。これからオールみなかみ町ということで、先ほど町長がおっしゃったように、それをまずは町民の方にしっかりと丁寧に説明しながら、その方向性に持っていきけるようまたさらなる推進を望むものです。

次に、先ほども申し上げましたが、人口流出、地域活性化などの問題解決のために最優先課題として何から取り組まれるつもりでしょうか。ビジョンがございましたらあわせてお聞かせください。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今さっきのユネスコエコパークの話をしただけさせていただければ、エコパークというものを利用するために、どちらかというとエコパークではなくてバイオスフェア・リザーブ、BRのほうを活用していきたい。ヨーロッパの方たちはそういうものの価値

値というものはかなり知っていただいていると。ヨーロッパの人は、それこそエコパークの意義だとか意味だとか価値というのはよくわかっていらっしゃる。そういう人たちにまず町に来ていただく。町に来ていただいて、住んでいる方に、こんなにすごいんだよと話をしてもらいたいと思っています。そういうことから始めないと、まず自分たちの住んでいる人たちが、自分たちの取った認証についての価値がわかっていない状態ではいけないと私は思っています。

今このみなかみ町でユネスコエコパークの価値を住民の皆さんが本当にわかっているかというところは少し疑問があります。これについては今ここにいる課長たちにほとんど話していませんので、自分としてはそういうところにもう一度立ち返っていきたくと。それでこのみなかみという高原、このきれいな景色、きれいな川、そういうものを利用してやっぱりリゾート地としてちゃんとした形にしていくのが、ユネスコエコパークを利用していく形ではないかなと自分では思っています。

特にうちの町自体は、ヨーロッパの人たちが呼び込みをしなくてもやはり入ってくる町です。旅行してくる人たちは欧米の人たちがこの町を訪れてくれる、呼び込みしなくても訪れてくれている。その意味というのは今言ったところだと思っていますので、そういった要素も勘案しつつ、利用しつつ、そういう方向で中心に置ければなということを考えています。

今さっきも言っていますが、人間ですから、同じようなものを利用しようと思っても見る角度、使う方法は違ってくると思うんです。なので、その辺のところは個性だと思っていただいて今の話を聞いていただければありがたいかなと思っています。

次の質問についてお答えさせていただきます。

まだ就任して1カ月ですから、この町自体に課題というのが山積みになっているわけです。なので、今、各課で一生懸命ヒアリングして、幾ら議員になっていたとしてもそこまでやっぱり踏み込んで見ていなかった部分、聞いていなかった部分というのがいっぱいあります。なので、各課とお話ししながら、その事業の進捗状況だとか考え方だとか、そういうものについてまず勉強させていただいています。また、私自体もやっぱり公約、そういうものを持っています。その実現についてどんなような取り組み方ができるか、どんなような逆に言えばやり方、効果的な方法があるか、効果的にできるか、そういったものも含めて町民の人たちにとって何がベストであるかというようなものを今考え中です。

新年度予算の編成がこれから始まりますので、勉強中というのは、本当に一つ一つ判断しながら、またどうして積み上がってきたかというその背景についてちゃんと理解していないと、事業の継続をすとかしないとかいう判断もできません。そこに予算をつけるかつかないかというような判断もやっぱりできないと思うんです。それを一緒にやりつつ、一生懸命、町民の皆さんの幸せになるような方向で自分では町長になっていますので、それに近づけるための施策を一生懸命展開させていただきたいと思いながら日々ヒアリングをしていただいて、勉強している最中というのが今の状況ですので、その中で最優先なもの何かということこれから勉強させていただきたいと思います。

大枠では、言わせていただいたように人口流出というのが一番の問題だろうと思っています。

ますので、その辺について何とかなる方法というのは、特効薬はありませんので、1問目の質問でもお話ししましたが、一つ一つ丁寧にそれについて効いていこうという、薬になるだろという施策を一つ一つ展開させていくと。お金のなかで展開するわけですから、逆に言うと効果が出るものをやっぱりチョイスしていきたいと。やって失敗しましたというのではなく、そういうこともあるかもしれませんが、できる限りやったものが効果が出るというような裏づけをとりながらそういう事業を展開していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） 今お答えいただきましたけれども、その中で今、私的にはやっぱり高齢者の足の確保というか、きょうの上毛新聞にも出ていましたが、太田市で交通弱者のためにバスを無料化する実証実験を始めたというような記事も載っていましたが、やはり今うちの町の活性化とかそういった面から、また人口流出を防ぐという面から考えても、また高齢者の方、そういうところから考えても、この交通弱者の取り組みというのは、非常に大きな問題であるかと思うんです。

ちょっと町民アンケートなどを見させていただいても、もう40代ぐらいの方でも、もし許せるのであれば別の場所に移りたいという回答のパーセントも現実多くなっているわけなんです。そこには、もし自分が年をとったらとかそういう時とかにちょっと住みにくいというところがあるのでそういう回答も多くなっているのかなというのを感じますので、この町長はその辺のところは、今就任されたばかりではあるんですけども、町長の中でのこの優先順位というのはどのくらいになっていらっしゃるのかというのをちょっとお聞きしたいんですけども。

議長（林 喜美雄君） 町長。

- 町長（前田善成君） 今、高橋議員がおっしゃられている2次交通の問題というのはすごく大事な話になっています。それは高齢者だけの話ではなく、うちの町の基幹産業である観光という点でもそういう取り組みをしていただきたいというお話は、例えばJRさん、そういうところからもやっぱりお話が入ってくる。今、高橋議員がおっしゃられているようなもの、私も例えばここ後閑、みなかみ町ではもしかして町場で一番いろんなものがあるだろう、中心だろうと思われる地区でさえ、例えば下の段から上の段に上がってくるのが大変だと。それは実は坂を上るのではなくて坂をおりるほうが大変なんで、その坂をおりることができないから、じゃサンモールまで買い物しに歩いて、あの距離を歩いたほうがここの坂を上るよりもよっぽど楽なんだよと、そんなようなお話もやっぱり聞いています。

そういうものに対して、やはり自分の感情としてはそういうことをやっていきたいという話は本音だと思うんですね。これは、人間なので、やっぱりお年寄りの人を大事にした。政治の基本というのは何だというと弱い人を助けるということだと思いますが、それをやるためにどうするかというのはまた必要になってくると思うんですね。それは皆さんから税金をやっぱりいただいている。皆さんから税金をいただいている、皆さんがそれをやることに対していいだろう、それで間違いないだろうというような議論づけだとか、

やっぱり施策を考えるときに誰に対して公平かということも必要になってくる。

うちの町には路線バスというのも走っています。その路線バスの会社も実際やってもらっている。その路線バスの会社がなくなってしまうと、沼田市のように高額な費用を出してそこにバスを出してもらわなきゃいけないという現実も出てきます。そういったものを見ても、今までの事例だとか内容だとかそういうことはやはり比べていかなければいけないし、それに対して精査していかなければいけないと考えています。そういう中身を見た中で、それでも何とかそういう方向に持っていけるというところに知恵というものが働くのではないかなと。その知恵を出すために、こうやって皆さんのところで今話をさせていただいているのも本音だと思います。

議員の皆さんから、自分たちの住んでいる場所、またそういうところで感じていること、そういう不満とか不安だとかそういうものが集まってきて、それが多数になって、どうしてもそれが必要だろうということであればそれに対して施策を打つというのが町の職務だと思っていますので、町長としての権限を使ってもそういうことはできると思います。そういうものに対して、それをできるようにやはり協力していただくのも議会だと思っていますので、その辺のところを行政側にそうやって伝えていただいて、こんな現状があると、そういう調査もしていただいて、一緒にそういう方向になったらいいなというのが、今の私が回答できる一番の回答かなとは思っています。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） 先ほどお答えいただきましたけれども、そのほかに雪かきの問題とか、先ほど山田議員のほうからお話もありましたけれども、コミュニティーの創出とか、あと若者が住みやすい町ということで住宅の確保というところで、町営住宅に入りたいけれども結局は所得制限で、逆に所得が高くて入れないという現状も今抱えている問題だと思うんですね。そういうところとか、空き家対策、あと防災無線の整備など、さまざまいろいろ問題あるんですけども、そこを本当に、先ほど町長答弁いただいたように、まさに政治の主導で知恵を出してやっていくということがやっぱり大事なのかなと思いますので、しっかり町民の中に飛び込んでいただいて、また住民の知恵もおかりしながら今後の施策の展開につなげていただければと思います。

次に、町長の目標とする町政の中に皆様に寄り添うとありますように、寄り添うためには町民の皆様の声を聞くことが大変重要かと思えます。町民の皆様の声、ニーズを町政に反映するために、座談会などのような意見交換する機会を持つ考えはありますか。きのう石坂議員もおっしゃっていただいたし山田議員も言っていたので、そこは多分持っていたと思うんですけども、ちょっと再度確認をさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、高橋議員おっしゃられたように、石坂議員のほうからも、そういうお話をさせていただいていますし、議員時代も石坂議員が何度となく岸前町長にそういうものの開催をいうこととお話を聞いている姿もよく拝見していましたので、それについては重々承知させていただいています。

私自身もそういうふうな話をさせていただいているように、膝を交えてのお話の交換会みたいなものを一番考えているわけですね。なので、椅子に座ってただ当局がお話をするということではなく、ある程度皆さんのお話を聞くと。座布団敷いて座談会をするのがいかにという話はまた別なんですけれども、そんなような雰囲気ですら座談会をできたらなというふうには考えております。どのような形でそういうことができるか、いつごろならそういうことが可能かというのがまだ、すみません、今の日々の業務というものをこなしている中でその検討をまださせていただいていません。なので、そういう意味では、今やりたいたいという意向は伝えさせていただくんですが、どういう形でできるかというものについてはまだご容赦願いたいかなと思っています。

現実には今まで、平成22年2月から18カ所かな、やらせていただいたときには225名で、26年のときに11月から9カ所やったときは150名で、28年9月から8カ所やったときには138人、だんだん参加者の方が減ってきているということもありますから、逆に減っていくんじゃなくてふえていくような方法で考えられるものを、せっかくやるのであればしていきたいと思っています。そのためにまた高橋議員、また石坂議員においてもその辺のアイデアを出していただければいいかなと。減っていく原因もその中にあると思うんです。だから、皆さんが参加しても、つまらないとか全然意味がないとかそういうことがあるかもしれません。そういった原因を一つ一つなくしていくという話の、それも原因だと思うんですね。住民参加型の町政ということをやっていますので、まず来てもらわないと、その来てもらえるような状況はつくっていかなくちゃいけないと思っています。来ていただけるためにはどういったものが今障害になっていて、どんなところがよくないのか、そういうところを聞かせていただければ皆さんが来ていただける会場が設定できると思うんです。

一つの会場で今言ったように200人とか100人とか来ていただければ、それこそそこでニーズをしっかりと拾っていただけますので、話もできますので、そういう意味では、そういった意見の交換会、座談会になれるように皆さんからそういうお知恵をかしていただければ幸いかなと思っていますので、よろしくお願ひします。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） やはり人数の問題もありますし、あとは地域ごととか業種とかさまざまな形、また移住・定住された方を中心にとかというのであると思いますので、テーマごとに小回りのきく、結構皆さんのお声を聞けるような、そういったものを考えていければというようなことは思っています。それで、価値的な開催、また運営等を研修するという、やっぱり行政側の努力というかそこも必要になると思いますので、その辺のところはよろしくお願ひいたします。

次に、町民サービスの充実についてですが、特に町民の方の接点となる窓口業務にポイントを当ててお聞きします。

町民が主役とお考えになるからには、職員の対応も町民ファーストの方向性と思いますが、その認識でよろしいでしょうか。また、具体的に研修体制や窓口業務の向上のために

取り組みをされていることが今ございましたらお聞かせください。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、高橋議員がおっしゃられたような形で、やはり住民の方と一番最初に接するというのはその部分だと思っています。高橋議員の提案のおかげで総合案内所というものを設置させていただいています。確かに、町民の方がそこに来ていただいて、そこで案内するというところまでは今のところ実現ができていますが、今のところそれ以上の、町として例えば職員のスキルアップというものに対して研修費は980万円ほど予算化していますが、そういったものの中に接客マナーとかそういうものに対して予算はとっていません。今言われているようなものというのは、そういうところで接客だとかそういうことに通じるのかなと思っていますので、今、議員からのお話もありますので、これからそういうものが取り入れられるかどうかということを経査して、研究しないといけないものですから、当初予算の中で、使えるかどうかということを経査させていただきたいと思っています。

また、群馬県で主催している窓口改革の研究会というものに対しては総務課のほうで取り組んでいただいて、勉強会のほうには参加させていただいているという現状があります。

先進地の事例なんかでも話を聞くんですが、それは板橋区というような形で、大きな区で外部委託を全てしていると。あとは長岡市で、アオーレ長岡、大きなショッピングモールのところに全部の課が並んでいる。それというのがまた、うちの町に対してその事例を持ってくることが全ていい方向になるというものの事例ではないというふうに思われます。なので、どういったものがまずうちの町にとっていいのかということから始めていかないといいかなと。例えばですけども、今、庁舎が狭くて、余りきれいじゃないとかそういうところも含めて、例えば気持ちよく来ていただくという話にしてきたときには、それもまた検討していかなくちゃいけないのかなということになってきますし、来ていただく姿勢というのはつくっていかなくちゃいけないと。

住民へのサービス、行政としてはサービス、サービスと言っていますから、そのサービスというのは何だと思ったら、心地よくそこに来ていただくということが一番だと思うんですね。初めて聞くこと、やりたいことが話しやすいという環境をつくっていく。そういう意味では、どういうことが今これからできるかということを経査して、研究してということが必要だと思っています。年度ももう中間になってきていますので、その辺のところの予算の組み替えだとかそういうことができるかどうかも含めて検討させていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） お答えいただきましたけれども、やっぱりそういう町民に沿ったサービスというのが非常に大事になってくると思います。

それで、ある自治体では窓口業務の職員の方を中心に窓口向上委員会というのを設けて、利用者の視点に立った窓口業務の充実を図っているところもあるそうです。これは別にお金をかけることではなくて、ある期間を決めて来庁された方にアンケートを実施し、ここ

ではという町民の方をお客様と捉えて、その満足度を知ることから始めているということなんですね。

うちの町でもぜひこのアンケートの実施をお願いしていただいて、その中でどういったことが今必要なのかとか、逆に今、皆さんからちょっとお聞きしているのが、笑顔の対応がないとか、上目線的な対応だ、やる気が感じられないとか、庁内ですれ違っても会釈がないなど、そういうお声はいただいているんですけども、それが本当に現実そうなのかというところもやっぱりアンケートをとってみたら逆にはっきりするということもあると思いますので。あるところでは、議員さんがそういうふうに言ったのでアンケートをとったら、現実には皆さん満足していましたという結果も出たというようなことも聞いていますので、今うちの町として本当のところどうなのかというのをしっかりと確認する作業というのにも必要だと思いますので、その辺のところはどうでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、高橋議員がおっしゃられている、行政の一番、外部委託してはいけないところというのは何だといったら、窓口業務だと思っているんですね。その窓口業務というのが実は基礎自治体で一番大事で、住民の人にそこに来ていただいて接するというところで、逆に言えば、今の現状だとか今どういうふうになっているのか、それこそ本当の話がそこで聞こえてくるというのが窓口の業務だと思っています。なので、その辺についてはしっかりそういう形で話をさせていただきたいと思っています。

アンケートについては、このアンケートというのはとり方で、変な話ですけども、ある程度の回答をもらいたいと思うと、そういうふうには回答をその方向に持っていくというような文章のつくり方ということもできますので、アンケートが必ずしも今の住民の人たちのニーズをあらわすというものにはならないかなということもあります。

もし本当に住民の方たちのニーズを把握していらっしゃるとすれば、逆に議員の皆さんだと思っています。議員の皆さんが自分たちの地区の有権者の方たちに話を聞いていただいて、その人たちが恐らく感じていることというのが、皆さんが感じていることとほぼイコールではないかなと思います。なので、そういうところで逆に感じていることをこうやって議会のこういう席でお話しただけのほうで、今の住民の方たちの考えを直接伝えていただけるという形になっているのかなと私自身は考えています。

なので、その辺についてはそちらのほうが正しいかなということで皆さんにお話を聞かせていただいて、その皆さんの提案を行政という中で政策に生かしていきたいよという話を何回も何回もさせてもらっているのはそういうことだと思っていますので、そちらのほうをしていただいて、今もし高橋議員が言われるように、うちの町で笑顔がないとか挨拶ができないとか、それというのは恐らく、町がどうのこうのじゃなくて、人間としてどうだという話になってしまうので、そういう意味ではちゃんとそういうことをしていきたいよということでもう一度私のほうからも話をしていきたいし、普通、社会人としてやはり、礼節じゃないですけども、挨拶することと恐らく礼をすることというのは普通にできなくちゃいけないことだと思っていますので、その辺についてももう一度そういったことがないようにお話をしていきたいとは思っています。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） また同時に、職員の方のやる気をやはり引き出すということが大変重要かと思えます。明るくてきばきと仕事をしていただくことは住民の方にとってもすがすがしいものがあると思えますので、しっかりとまたそのマネジメント等をしていただきたいと思えます。

次に、環境面から考えたごみの料金のあり方で質問をさせていただきます。

当町は平成20年9月に環境力宣言をしました。これをもとにまちづくりを進めてきた経緯がございます。このまちづくりの計画の中で書かれているんですけども、「その水源の地に住む私たちは、自然環境に対して畏敬と感謝の念を心に刻みつつ、水と森林をまもり、いかし、ひろめる、『環境力』を身につけ、低炭素社会の構築と流域に暮らす人々に安心して安全な環境を提供し続け、夢のあるまちづくりに取り組みます。」とあるように、この9年間、町としても町民の皆様も水源の町として誇りを持ち、努力をしてまいりました。その結果が徐々にあらわれてきているのではないかと思います。ユネスコエコパークの登録にも大きく貢献していると思えます。

また、2013年のデータになりますが、「日本・地域番付」のごみリサイクルの部で、全国1,760地域の中で当町は44番目です。今も世界の気候変動が大きな問題になっていますが、その解決に低炭素社会の必要性が課題になっているんだと思うんですけども、自治体の中には、ごみを排出することへのコスト意識を持っていただいて、そのことでごみへの関心を高め、ごみの減量・分別によるリサイクル等促進する目的を持って、あえてごみ袋の料金を高くしようとしている動きもあります。こういった背景の中でなぜ今、公約にも掲げていただきましたけれども、ごみ袋の料金の無料化というのを掲げたのかということと、またどのような形で無料化を進めていくのかということをお願いいたします。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 高橋議員の質問にお答えします。

私、一つ議員がもし勘違いされているんだったら訂正したいというのは、ごみをふやそうとか、例えば環境を悪くしようというつもりで進めていることでは全くありません。今さっき1,760の自治体の中の44というお話がありましたが、実は恐らく板倉町のほうが上に行っていると思えます。板倉町のほうはもうRDFはやめると、焼却にするという話になるんですね。再利用というのが、実は目標としてそのころに考えていたものと今の利用を考えると違ってたりするので、ただ単に数字だけいいもので出しても意味がないので、うちの町は逆にそれをやめますよと。そうすると恐らくみなかみさんが1番になっちゃうんで、ですけども、うちはやめますという話をしていると。それは、数字だけじゃなくて、本当の意味で住民の人たちがごみについてどうするかと考えたときに、PRになることより、住んでいる人たちが利益を生むものについてちゃんと考えようということで焼却に変えますという話をしています。

また、逆に草津町については、ごみが多いことが自慢だと言っていました。これ、県の知事会のときにも草津の町長が自分で自慢していましたけれども、ごみが多い、イコール

人が来てくれていると、観光地としては。それについて逆にごみが多いことを自慢にしたいと、だからうちの町はごみの減量はしませんという話をしっかり市町村の首長がいる中でしました。でも、それはその考え方だと私は思うんですね。

ただ、私がどうしてごみのほうを無料化するというのは、何回も何回もですが、高橋議員なんかも恐らく話を聞かれていると思う。うちの町自体で普通に生活している主婦の方が一番気になっていることというのが、実はごみ袋が高いということだと思うんです。ごみ袋が高い、じゃそれを安くすることがいいのか、ただにすることがいいのかという議論があると思います。私は、ごみを減らすことも一つの考え方で、減らしていただきたいと。減らしていただきたいんだけど、でも減らすかわりに、そういうことをしていただくかわりに、ごみについてはいいですよという話をしようという考え方に立っています。

なので、ごみの量としては今、例えばうちの町が800グラムぐらいですか、1日1人当たり800ちょっとだと思いますけれども、ごみの量が。それを京都ぐらいの200グラム弱、4分の1ぐらいにしてもらえたらありがたいかなと思っています。

このごみというのは、今、うちの町自体は収集運搬の経費、重量的に負担をしていただいているということですね。こういうことで、確かに今、具体的に言えば一つの袋、45リットル入りの大きな袋、それにゴミを一生懸命詰めると10キロぐらい入るわけですね。そういうような形になっているものを定量式に。少なくともごみの袋は、今例えば福祉なんかでも配っているように家庭に何枚だよと。完全無料化と私言っていないので、要は何枚だよということで配ります。その配った量というのが、ある程度なくなってきたらそこから先というのは有料ですよという形を考えています。

そういうことでごみをただにしたいということを考えているので、何でもかんでも、逆に言えばごみを出してただにするということではないと自分では思っています。

袋を逆に言うと渡すことによってごみのある程度の制限はかかると思っています。そのごみの袋の中にごみを入れたいわけですから、そうすると大体、これは予想ですからならなかったらすみませんけれども、普通だったら、今の状況を見るととにかく詰め込むわけですよ。そうすると、定量で渡しているごみ袋も恐らくすき間がないほど一生懸命入れて出してくると思うんです。そういうことがセイサする、その中に入れてくるということにもなるし、今、うちの町自体は生ごみの再生の機械だとかそういうものに対しての補助金、恐らく県内で一番高い補助金を出している。それに対しての活用率もかなり上がっています。年々ごみに対して、堆肥にするとかそういうことで活用するという意識はすごく高くなっている町だと思うんですね。

そういうところも利用しつつ、今言った形である程度、住んでいる人たちにとって問題だよとか、ちょっとおかしいよと思っているものを解決しながら、環境というものに配慮してごみの量がある程度制約できる、ふえていかない、でも逆に言うと安くできるという方法を今検討しているところです。これができるような方向で今研究させていただきながら進めよう。これは恐らくうちの町の議会のほうにも今おつなぎしているところもあると思いますが、ある程度そういう形で町としては進みたいなと思っているところでもあります。

私自身も、どちらも何とかしたい。例えばごみがふえちゃうということではなく、ごみを減らしながらなおかつごみ袋も要はただにしたい。その両方の要求を何とかする。そのためにあるのが政治だと思っていますので、皆さんに今提案させていただくのもそうですけれども、そういう中で知恵をかしていただくということも必要だと思っているんですね。だから、今、完全無料化ではなく、私はごみ袋の無料化ということはしたいそのごみの無料化をするときに環境の町というところのイメージは壊したくないという中では、これがベストかどうかわかりませんが、ベターの方になるのかなということでお話をさせていただいています。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） そうしますと、結論的には、公約では無料化ということであつたわけではなかったけれども、よく話を聞いてみると完全無料化ではないという認識でよろしいでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） その完全無料化ということは選挙の間も言っていなかったと思います。形として無料化をするよということ考えていますので。その辺のところは、すみません、きのうもちょっといろいろあったんですけれども、言葉の問題なので、でも、ほぼほぼですけれども、ごみの経費としてどうなんだという話になってきたときには、ほとんどの人が恐らく無料化になるんだと思うんですね。ごみ袋の配付の基準というのは、平均的な恐らく皆さんが使っている量を算出して、それに対して必要なごみ袋を配るということになると思いますので、そうなったときには平均以上出さなきゃいいわけですから、そうすればそれは普通に無料化になってくると。そうすると減量されてくるのではないのでしょうかと考えているんですね。

だから、平均値を下げてしまえばいいだけの話なんで、平均以下にみんながなくなってしまえば誰も有料化にならないですから、そうすればごみの量は必然的に減りますよ、そういう考え方でお話をさせてもらっているんで、今、高橋議員がおっしゃられるように、そこからいっぱい使っちゃうという話になればそれは逆ですけれども、私は逆のほうで考えているので、そういう認識でいていただいたほうがいいかなと思います。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） ちょっと時間もなくなってきましたけれども、そうはいっても町民の方はやっぱり無料化というのがもう頭に入っちゃって、そういう部分というのはあるということは否めないと思います。

それにしても、処理費にしても、年間約3億9,000万からのお金が税金投入でされているわけでございます。私も、下げるといこととか無料化に完全に反対しているということではなくて、町長もおっしゃっていましたが、町民の方に耳を傾けるというところの部分で、この1カ月間私も聞いている中では、値下げはしてほしいけれども無料化はちょっと抵抗があるとか、やっぱりエコパークの町として、今もう貴重な1袋70円

というお金をいただいているわけだから、それを環境のほうに回したらいいんじゃないでしょうかという、そういう意見もあります。

ごみ問題は一番身近な問題であり、地球規模にも通ずる問題であると思います。そして、今思うのは、何より将来を担う子供たちもこの問題は、自分たちの出したごみには責任を持つという、そういう環境を考える上での学びの場ともなるので、トップダウンで結論を出すのではなく、どのような結論にするにしてもよく町民の方の意見に耳を傾けて、環境面、あとまた今までの町の取り組みの歴史があるわけですね。そのこととか、あとそういう完全無料化じゃなくて、ある程度決まったごみ袋を町民の方にお出しして、その中でしっかり環境に取り組んでいただくということも、そこも町民の方に徹底をしていくという中で初めているいろんなことが進んでいくことになるかと思しますので、現実的には3億円からのお金がそこに投入されているわけですから、その辺のところもしっかりと丁寧に説明をしていただいて、まず本当に皆さんが納得される形での意見の集約というところで、しっかりこのごみ問題のことに関しては議論をまたしていただくということが大事なかなと思います。

また、高齢化が進む中、もっと町民の方に寄り添ったごみの回収の仕方というか、あと粗大ごみの扱い、布団なんかも今結構、アメニティに持っていくのもちょっと足がなくて大変というような声もいただいていますので、そういったところでいろいろの部分で、お金もかかるような要素というのは、今後10年先を見据えた中でいろいろそういうことも出てくると思っていますので、その辺の議論をしっかりとさせていただきたいと思うんですけども、その辺に対してはどうでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、高橋議員のほうから3億円というお話が出ていましたけれども、それは恐らく施設の維持費としてかかるお金ですから、例えばその部分について5,000万が恐らく無料化になるために必要な財源だと思っています。そう考えればその5,000万円のうち、ごみを今少なくしていったら、少なくなってきます。生ごみのやり方を変えるだけでもかなり違ってきます。そこで財源というのはある程度、その5,000万をどれだけ減らすかという話になってきますので、平均のごみのという話になってくると3,000以下になるだろうというような施策展開もできるので、半分以下の金額になれば、例えばですけども、半分にして今と同じやり方をすると、半分まで何とかごみを減らしていただいただけにするというのは、考え方、そんなに変わらないんだと思うんですね。そういうことを今言われたようにお話をしていません、まだ。だから、そういうところを皆さんにお話をするために、今こうやって高橋議員の質問に対してこれ幸いに話をさせていただいているのも本音なので、また皆さんにそういうふうに広めていただければありがたいかなと思っていますので、よろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 町民の方に見える議論を展開していただいて、今後10年というのがこの町にとってすごく大事な10年になると思いますので、しっかりと町民に寄り添って、

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） その中で、町長のお言葉の中で経営者目線でやっていくと、この辺は私は非常に期待するところでありまして、大いにそういう目線でやっていただければと思います。その中で、町長も言っていました経営者目線ということで、町長の経営者経験というのをちょっとお聞きしたいんですが、よろしいですか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 正確に言えば、平成9年から18年までが社長で、その前の3年から9年までが専務という形だと思います。ちょっと数字は間違っているかもしれないですけども、すみません、通告いただいていないのでちゃんとは調べていないです。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） この辺は正確じゃなくてもいいんですけども、平成9年から18年までが社長ということで、それ以降は議員になられてからという解釈でいいわけですよ。その間は経営者等じゃなくて技術者としてはかかわってきたけれどもということの解釈でいいわけですね。

その中で、費用対効果というのが、民間の利益を上げる会社とこういう行政というのは効果というのを見る線というのが、非常にその辺は難しい部分があるんですけども、町長はどういう観点からそういうところは見ていくつもりでいるんでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、小林議員がおっしゃられるように、民間だと例えば利益が出る、もうかる、そういったところで恐らく効果というのとははかれると思います。ですが、恐らく行政のサービスというのは、例えばお金をかけたからどんな結果が出るというのがわからないものがありますよね。特に観光なんて、どうやって見るんだという話だと思うんです。そういうところも、どういうふうにそれを評価していくかということが、例えばアンケートはどうかという話になるかもしれません。ですけども、その中で400人、500人の方から結果が出てきた中で、うちの町は子育てには手厚い町だよというふうに皆さんが言っているみたいな結果が出てくる。そういうものをもうちょっと細かく調査させていただくと。それもアンケートじゃなくても考えられることというのは、まだこれはこういう話でというところは考えていませんが、ある程度そういうヒアリングをしながらそれについて費用対効果というのを見られればいいなというふうには思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） その辺のヒアリングというのは町民対象ということですよ。今、事業評価というのはとりあえずやっている、とりあえずという言い方はいいかどうかあれですけども、やっているわけなんですけれども、その評価に関しての評価というか、町長の感想はどうなんでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今の事業評価については、ある程度の評価は出ているんだと思います。ただ、よく言うんですけども、民間で言う例えばだめだったことだとかクレーム、本来はそういうものがあることによって商品価値を上げるとか、新しい施策ができるだとか、そういうところへつながるわけなんですけど、これについてやっぱり行政の評価というのはなかなかこんなところがおかしいとか間違っているというのは書きにくいというところがあります。そういうところを少し、どうしたらいいかという話はさせていただいている点があるので、逆にクレームだとかおかしいという点を何とか吸い上げられる方法はないかなというふうには思っています。

そういうことができるようになると、評価自体も個々の評価をしていただいている中で活用できるし、差が余り出ていないというところが逆に言うと問題なんだと思っているんですね。だから、差をつけられるような、事業に対してもうちょっとひつつけられるようなものになっていかないかなとは考えています。

これは今、小林議員に質問されて私が答えていることですから、それに対してどういう対応をしているとか、どんなことを考えているということではないですが、事業評価として今行っている評価について議員のとき一般質問させていただいたり、その調査をさせていただいたときの感想としては、それについての差が余り出てこない。事業評価をすることによってやっぱり収入だとか自分の出世だとか、そういう人事ですね、そういうものに対して余りそれに対しての差が出ないというところで、そこを使わない、差をつけないというところも見受けられる。

また、そういうような総務省なんかの調査もありますので、そういったところをどうやってももう少し活用できるような形にできるかというのは、これから精査していかなきゃいけない点だと思いますし、逆に言えば、せっかく持っている制度ですから、そういうものも活用できるようにしていくのが本来の筋だと思っています。なので、それについてもう少し研鑽させていただいて、活用の方法を勉強させていただければと思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 先ほど高橋久美子議員への答弁の中でも同じ事業をやっているけど個性があるんだというお話でしたので、それは新しい前田町長なりの個性を生かしていただいて、うまくまたいいものにしていただければと思います。

高橋久美子議員の質問の中で、ちょっと同じになるかもしれないですけども、私、確認できなかったんですけども、今のまち・ひと・しごと総合戦略というのは、今、町長なりに進めているけれども、それは継続していくという解釈でよろしいんですね。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 恐らく山田議員のときにですか、行政の継続性というのはある程度心得ているつもりがあるというお話をさせていただいたように、例えばあしたから今までやったものをぼんと違うよという話にはやっぱりならないと思っています。それは恐らくアメリカの大統領がかわってもならないように、町長がかわったからあしたから白だったものを黒くするというにはならないと思っていますから。ただ、継続しているものに対して自

分なりに、やっぱり選挙で伺った話だとか、また自分なりに約束してきたことというのが入ってくる。

政治・政策の中でこんなことをできないですかという相談とかそういうことはしていくことになっていくと思いますから、それが逆に言うと自分の中の個性に、自分の考えに、こういうのどうかという提案という形で反映していただくような形になるのかなと思いますので、それについて同じものを同じ目的で同じような内容でやっても、こういうふうにしたらどうかというのはやっぱり個人に、例えば私が見ているものと小林議員が見ているもの、同じものを見ていても感じ方とか使い方が変わるようにそういうことがあるかなとは思いますが、それについて見ているものが違うよというところまでは違うものにならないというような形を考えています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 個性を生かしながら、基本的にはそれは行政の継続ということでやっていくということなんでしょうから、それはその答えでとっておきます。

きのうの石坂議員、またさっき山田議員のほうでも出ましたけれども、職員の今派遣のほうで特に台湾に行かれています阿部職員のことですけれども、先ほどではすぐどうするつもりはないということですが、将来的に、例えば彼の立場というか、非常に頑張ってもらっていて評価も高いんですけれども、彼の仕事というのはもうオンリーワンの仕事、彼以外、今の状況でかわることのできない仕事ですし、継続するかしないかは別としても次に送っていける人材もない状況なんですけれども、最終的には何年かめどで、それはかわりがいないんですからずっといてもらうかどこかで切るかという形になっちゃうと思うんですけれども、その辺、町長はどの辺がめどだというのはあるんですか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、小林議員が質問されているところというのが、私、恐らく山田議員のときにもちょっと話しさせていただきましたが、今、職員の阿部さんが向こうに行って、逆に言うと培っている人脈ですか、そういうものというのはかなり価値があるものだと思います。それこそ個性だと思うんですね。

だから、今まで例えばいろんな人の案内をたださせている。それをただやらせて、ただ負担しているということではなくて、うちも人件費というものをそこにやっぱり出しているわけですから、それに対してできた人脈をしっかり使わせてもらうと。逆に言えば、そのつなぎ役にも阿部さんになってもらう。ちょっと言えば営業マンになってもらうようなところも少しは出てくるだろうし、そういう活用の仕方というのができると思うんですね。だから、例えば人を送っているといっても送っている目的だとか使い方によっては違ってきます。

今どういうふうに考えますかという話なんですけど、すみませんけれども、阿部さんがやってきた功績について、今、例えばどういう状況になっているかということについては理解できています。そうすると、これから台南のいろいろ形も変わってこちらの体制も変わって、台南と例えばみなかみの話はしっかりしたものがまだできていない状態なので、自

分自身としては、今、職員をこっちへ下げてくるつもりはないです。今言ったように、活用の仕方もうそういうように活用したいと思っています。

今までと違うのは、案内人としてそういう活用をするだけではなくて、そういうことをやりつつ、案内をする、案内をさせた、そういう行政体のツール、また個人のそういう人たちを使える価値が出てくるように、その人たちを使えるようにまたうちのほうも態勢をとらなきゃいけないですが、そういうものを使う態勢をとりつつそういう人脈を使わせてもらうような形で阿部さんの活用というのを考えているので、それについて必要になるかならないかという時期を今のところ想定はしていません。どこぐらいまでそれを使えるかというのはこれから相談していこうというつもりではありますけれども、それについて今こういったという形の結論自体は持っていません。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 阿部職員の使い方、今の仕事はどうのこのじゃなくて、ずっと行きっ放しの状況はよくないと思っているわけですね。それを聞いているわけです。仕事、どういふふうに使うとか使わないじゃなくて、そうすると彼も職員ですからその部署だけの人間でいていいのかと。彼が望む、望まないは別としてもその辺をどう考えているんですかということです。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） それは、石坂議員に対してお答えしたのと同じような答弁になってしまいますけれども、ある程度の目的を持って派遣している。その目的というのが、今言ったように町にとってそれが必要だ、それが例えばどうしても必要なんだよという部分について出しているわけですから、その目的がある程度達成された時点で帰ってきてもらう、そういう話はさせていただいています。

その目的について、今どういう形でやりたいという話を各課長にヒアリングしている最中ですから、今それこそ小林議員が言われているように、じゃどうするんだという話をここで明確にいろんなことが全部しゃべれるようだったら恐らくそういう話をしていますけれども、まだそこまで、すみません、中身の把握もできていませんし、少なくとも小林議員に言われているものについて自分で今答えられる範疇では話していますが、正確な計画、正確なビジョンだとかそこまで、一人の職員が何年いて、どうしてこっちに帰ってこなくちゃいけないという人事の計画までは、すみませんけれども把握はできていませんので、その辺のところは今お話ししたようにある程度、みなかみ町というものの目的、例えば目的が達成された時点でその職員を下げてくる。その下げてくる時期というのは、例えば観光商工課だとか総合戦略だとかそういうところとお話ししながら決めていきたいと思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 目的を達成したら引き上げると、その目的に関しては、これはどこが目的なのかということは時間をかけて、もうちょっと時間をくださいということで、そんな解釈

でいいわけですね。その答えでよかったんですけども。

きのうの阿部賢一議員の質問で教育長人事のことについて質問が出ました。町長の答弁では、現時点では問題ないということですけども、それはことしいばいまでは問題ないのか、年度末には必要なのか、どうなのでしょう。それとも教育長は要らないのか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 教育長が要らないという話はしていなかったと思うので、その辺のところはそういうつもりではありません。しかるべき時期にというお話をさせていただいているのも、阿部議員の答弁の中でもさせていただきましたが、人事としてじゃどういうものか考えているというそのアイデア、考えている方向性だとかそういうものは持っています。ですが、ちょっとそのときにもお話しさせていただきましたが、それを達成するのに、ちょっと今そういうお話をしてもらったら軽々なのでというお話をさせていただいているのも本音です。

なので、そういうことで腹に持って考えていることもあります。それについてここで明確にお答えすることはできませんというお話をしたと思います。すみません、同じような答弁になってしまうので、申しわけありませんが、そういうような形で答えさせていただきたいと思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 人事は町長の専権事項ですし相手もいることですから、難しいというか、表面に出せない部分というのも当然あるのは理解しています。きのうと同じ答弁ということですけども、やはり議会側というか、特に現場、保護者、子供たちも含めてそういうところの不安感というのがあると思いますので、それなりの時期というのがあるんでしょうから、それはそれで町長の人事まで口を出す気はありませんけれども、そういうところも理解しておいてもらいたいと思います。

もう一つ、いろいろ飛びますけれども、きのう石坂議員の質問の中で中学生の海外派遣の、子供たちの格差というか、行ける、行けない子の中で石坂議員は奨学金みたいな制度をつくって見たらどうかというような質問をしていたんですけども、その答えを僕ははっきりわからなかったもので、その辺をもう一回確認でお聞きしたいんですけども。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） そのときにもちょっとお答えしたと思うんですが、教育事業として中学生の海外派遣というのはさせていただいている経緯があるので、行けない子と行っている子との差を埋めるために、ある程度、応分の負担というのはさせていただきたいと、そういう考え方でみなかみ町としては取り組んでいきたいというお話をさせていただきました。石坂議員のほうからそういうお話をされた中でそういうふうな回答をさせていただいています。

また、制度についてですが、それができるかできないか、またそれが適正かどうか、そういうものについても、みなかみ町だけではなく、海外派遣をしている中で会議を持っています。そういう協議会の会議の中でも一度お話しして結論を出さないといけないという

考え方があります。そのためにそういう会議を持っているわけですから、そこにまず、そういうお話が出ましたと、議会からこういう提案がありましたという話で、どうでしょうという話をまず投げるのが筋かなと思っていますので、それについてやる、やらないの以前として、こういうお話があるからどうでしょうか、検討してみていただけませんか、もんでもらえませんかという話をすることが一番先にこちらの当局としてやらなきゃいけないことかなというようには感じていますので、そういう回答をさせていただきたいと思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5 番（小林 洋君） それはそのとおり、その筋ですし、今の回答で理解できました。

それと、先ほど冒頭で朝始まる前に車等の処分の話が出ましたけれども、当然リースと資産というのが違うのは理解していますけれども、資産の中でダブルスタンダードがあるのかどうか。町長じゃなくても総務課長でもいいんですけども、その辺をお聞きしたいんですけども。

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） 小林議員の質問にお答えさせていただきます。

ダブルスタンダード、要するに教育委員会、教育課と総務課で若干考え方が違うんじゃないかと、多分そういうことなんだと思います。例えば除雪車なんかケースによっては資産価値が、鉄としての部分で価値があるというようなことを考えると、そういうものは売買契約なりということがあり得るかもしれません。

ですから、総務課で管理している車両については、結局、一般的に償却期間どのくらいというのがあると思うんですけども、車両について、でもそれが過ぎても当然乗れます。ただ、町とすると、実際には10年以上乗っている車が結構あるんですかね。そういったものについても価値がないという判断をして売却、実際にはまだ個人の感覚とすると乗れるかもしれない、ただ行政とするとそれはもう乗れないという判断をして処分することを条件にしているというような考え方をしているところがございます。考え方とすると確かにまだ乗れるだろうというところはあるかもしれませんが、今言ったように使えないという判断をしているというところがございます。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5 番（小林 洋君） 使えないという、価値がないという判断はこちら側がしているんだと思うんですけども、価値がないという判断を第三者に確認してみるとかそういうことも必要なのかなと思うんですけども、これからの取り組みとして町長はどう、今なったばかりだし、研究、勉強しているところだということも踏まえて、今のこういう、結局ダブル基準というか二重基準になってしまうような状況をどうお考えになりますか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、小林議員が言われているように2つの基準があるとすれば、それについ

てどちらを使うんだという議論がやっぱり出てくることだと思いますので、それについて今までの流れと今までやってきたこととの理屈が合わないとか、そういうことになってしまふと行政としてはうまくないわけですから、行政の継続性というのを鑑みながら、今の2つの事例がどういう事態で、まずどうしてそういうことが起きたか、それについてどういう対応をしていくことがこれから皆さんにわかりやすい方向になるのか、そういうふうなことでまず事例の洗い直しと、それと今までの事例に対してどうだという、比べるですよ、そういうことから始めたいとは今思っています。

基準がもし一定でないだとすれば、その基準についてある程度整合性をとらさないといけないですから、その整合性をとるためにはまた、そういう整合性をとるためにどういったものがあるかというお話をさせていただくような諮問機関みたいなのをつくらないといけないのかなと。

資産、皆さんからお預かりした税金で買っているものですから、それについてある程度皆さんが納得できる、また理解していただける、そういうような基準の中でそういう行動を起こしていかなくちゃいけないと思っていますので、その基準をつくるためにまずそういうものから始めなくちゃいけないのかなというのが、この1日、2日、私が今お話を聞かせていただいた中で感じ、また考えていることと言われますと、そういうことが思っていますというように形で回答させていただくことになると思います。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） その辺、非常に我々としてもわかりにくいですし、町民に我々が、こっちは行政用語だと売買契約かもしれないですけども、簡単に言うと下取りに出して、こっちは何で出せないのかとなったときに、もうちょっとだめならだめなその辺の理由を精査しておいてもらいたいというふうに考えています。

もう一つ、その件で確認です。リースと町の持っている資産というのは当然違いますよね。町長、朝の答弁の中で、それはリースだからと、資産だから違うんだみたいな発言だったんですが、それは違いますよね。同じ資産のくくりでそれがあったということでもいいわけですよね。当然リースならそれは処分の仕方が違っててもそれは我々も理解できることなんですけれども。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） それについては間違いだと思います。ただ、持っている車の契約の仕方がいろいろあるということをはっきり言いたかっただけで、そういう意味で話をしたつもりなんです。

だから、資産として例えば持っている車とリースのものを同じ土俵に入れたわけじゃなくて、いろんなケースとしての契約のものがあるんですよという話をちょっとしたいと思っただけなんで、それについてどうなんだという話になれば、今みたいに話としては間違いだと思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林議員、通告に沿った質問にさせていただきたいと思います。

小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5 番（小林 洋君） 行政運営に関して絡みのことですから。違いますかね。今後の行政運営に関しての質問だと私は思っていますので、よろしくお願いします。

その中で、今の回答の中で、資産の中にもいろいろ持っている形態があるということですか。リースと資産というのがあるのはわかりますけれども。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 間違いということであれば間違いだと思いますので。ただ、私が言いたいのは、一番聞きたいことというのは、恐らく今基準が合っていないものについて基準をある程度つくるかどうかという話であって、資産がどうこうという話ではないような気がするのです。それについては明確に回答したつもりなんですけれども、私は、今言われているように、語尾をいろいろ言われるんだったら、それについてそういうことを言ってしまったのですみませんでしたという話はしたはずですし、それについて勘違いもありましたというお話もさせていただきました。

小林議員が今言われている一番の原因、欲しいところというのは、その資産について二通りのやり方があると、その二通りのやり方があることについてどうするんだという話についてはちゃんと明確な回答をさせていただいたつもりがあるので、それで違うということであればまた質問のほうをしてください。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5 番（小林 洋君） その回答で、私もその前の回答のときに、また資産の中にいろいろあるみたいなことをおっしゃったので、それがあのかなと思っただけです。

それと、きのうの確認なんですけれども、阿部賢一議員の質問の中で、茨城3区のほうに行かれたということで、それは町長が国会議員になることによって、めぐってみなかみ町がよくなるんだという解釈でいいんですかね。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） そういう説明をさせていただいたと思うんですが。この地から国を変える、国を変えればふるさとがよくなるというように記事にも書かれていますという説明をさせていただきました。どうしてそういうふうに至ったかという説明もさせていただいたつもりなので、今、小林議員がおっしゃられているようなつもりで、自分の中では。それがどう見えるかではなくて、自分の中ではそういう気持ちでそちらのほうに行ったんだよと。

国政に行って国会という場で今の地方の現状、例えば来年から予算がなくなっちゃうよと言われたら予算が削られちゃう、でも国のほうは国債を発行しているじゃないかとか、ちょっとしたお年寄りたちが困っているようなことも補助金をなくしてやっていけなくちゃいけないと、そういう中で議員になった。その議員のときに思った、国がやれと言ったものに対してやった事業を開始した、つくった、それで継続した。そうしたら、そこにお金がなくなったから、じゃそれについて金出さないよと言われて、何かおかしな町に国にされたという思いがあったという話をしたと思います。

なので、それに対して、国がやっているんだたら国にちゃんとした話をしなきゃいけない、だから国に言おうと思ったし、国でそういう話をしたいという話をしたと思うんで

すね。それについて自分がこう思っているということでお話をさせていただきましたので、そういうことだと思っています。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5 番（小林 洋君） きのうちそう聞かせていただきました。その中で私はちょっと疑問というか、そういう筋合いでいえばそのとおり、めぐりめぐって郷土のためになるということの理屈はよくわかります。その中で、我々も町長向こうで出られたときに仲間として応援に行かせてもらいました。その中で、町長は向こうで骨を埋めるつもりで頑張るんだという決意も見えました。本当に頑張っているんだなというので、見ず知らずの土地に来て数少ない仲間が頑張っているというふうに関心していたのを思い出します。

町長、自分の選挙の中でもみなかみ生まれ、みなかみ育ちということキャッチフレーズにしたと思うんですけども、僕はその案はどうでもいいと思っているんですけども、ご自身が茨城3区に行かれて、ここで骨を埋めるというつもりで戦った人が、その辺のフレーズが私にとってちょっとわからないところなんで、なぜそれを聞くかという、それは、今後行政運営をしていく中でその辺がわかりづらい、ほかのことにしてもわかりづらかったり信用できなくなったりするという面が出てくると、やはり私も全体がうまくいかないと思いますので、そういう面を含めて町長はその辺の思いをどう、これからの信頼関係というか、そういうことを含めてその辺をちょっとお聞きしたいんですけども。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） すみません、私のほうがちょっと今、小林議員の質問を通じてよくわからないんですけども、私、恐らく上牧で生まれたので、そこで育って、確かに大学でちょっと出ていきましたけれども、生まれて育ったのはみなかみ町でいいんじゃないかなと思います。もし大学に行ったのが違うという話であれば、それはそういうことだと思いますし、東京の会社に行ったのもそういうことだと思いますけれども、基本的にはそういうお話をしたことがどういうふうに関連性であって、どういうふうに関連性がないことかということについては私にはよくわかりません。

議員としてもそういう形で活動させていただいてきていますし、そこで選挙区から出たことで何か、生まれたこと、育ったことに対して疑義が生じるような形になるのであれば、逆にお教え願いたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5 番（小林 洋君） ここは私が質問する場なんで、質問がわかりづらかったということに関しては質問し直させていただきますけれども、それがいけないとか間違っているとかという話じゃなくて、町長は一旦そこで骨を埋めるんだという宣言をして選挙に立って、またこちらでそのところを強調してやった考え方はどうなんですかということ。骨を埋めるつもりで茨城に行った人が、今度はみなかみ生まれのみなかみ育ちを強調して選挙をなされるということはどういう心境なんですかということなんです。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町 長（前田善成君） これ堂々めぐりになるのかなと思うんですけども、恐らく話をさせていただいて、まず選挙区に行ったという中の話として、私、一番最初にみなかみのためだと、だからみなかみのために行くんだという話をさせていただきました。選挙区に、茨城3区に行くときに、じゃ命かけて行きますよという気持ちで行くわけです。本当に誰も知らない、そこに行ったこともない、それで選挙をやるわけですからじゃ、そういうふうに言ったと、その前提が何だといったら、それはまずみなかみのためにやりたいということが前提であって、茨城で国会議員になりたいと言っていないです。

そういう話をしているんじゃないでしょうかと私思っているから、私がみなかみ生まれ、みなかみ育ちと話をして、小林議員が今言われている質問に答えていることと、どこが相关性がないのかという意味がわからないですと。例えばですけども、そういう話で行ったことに対して行ったんだろうと言われてたら、行きました。そこでそれじゃ選挙したんだろうと言われてたら、しました。ですけども、その選挙をするときの意味、やった意義という話はお話しさせていただいているし、それに対しての理由も説明させていただきました。心の中で思っていることですから、頭の中で感じていることで心の中で思っていることですから、そういうことを見せろと言われてたら、見せる方法はないので言葉にするしかないですね。言葉にして話しているのがそういうことだと思っています。

なので、それについて、いや、わからないよとか、それについて理解できないよという話であれば、それを理解していただくために何度でもお話をさせていただきし、今みたいな話を繰り返すしかないのかなと思っています。そういうことだと思うんですね。だから、政治の世界で一生懸命、何とか皆さんのためにやりたいという話をしているということはそういうことだと思っています。

じゃ、みなかみ町のことを一生懸命やるのが国のためにならないかといったら、そんなことはないと思いますので、国を変えるにはまず地元のこういう自治体でしっかりやることも一つの方法だと思います。そういうことができないものに対しては国に言わなくちゃいけない。国でやることと、自治体でやることというのはやっぱり違っている部分もあるけれども、国に行って変えなくちゃいけないこともあるわけですから、それについて変えに行きたかったと。

それはかなわなかったです、確かに。ですけども、基本的にここで町長をやりたいという気持ちはそのときと同じ気持ちだと思うんですね。みなかみのために一生懸命やりたい。みなかみのために一生懸命やりたいということが信用できないという話であれば、それはもうどう説明していいと言ってもわからないですよ。みなかみ生まれ、みなかみ育ちが、まずですよ、みなかみに生まれてみなかみで育ったというのは事実だし、じゃそれが違うかという話にはならないと思うので、今言ったそういうことに話をさせていただけば、国会に行った気持ちと言われるとそういうことなので、それもわからないと言われてたらまたその話をずっと繰り返すしかないわけですから、そういう意味ではそういうふうに分の中では考えていますし、自分の中ではそういうつもりでいます。

なので、それを今もお答えさせていただいて、繰り返しになってすみませんけれども、そういうことで頑張っていきたいと思っているんですというお話をきのうもきょうもさせ

ていただいたと思っています。なので、その辺のところをご理解いただくしかないので、ご理解いただければと思っていますので、よろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 堂々めぐりになるので、そこはお互いの理解を深めていくということで終わりにしたいと思います。

公約に関して、町長、社会保障関連の幾つか挙げていますが、高校生の保険の無償化と、また介護保険の要介護と要支援のサービスの同等化ということですが、もう一度ちょっと確認したいんですけども、要介護と要支援のサービスを同等化するという事は、要は税金で賄ってサービスを同等にするという、基本的にはそういう考え方ということではないですか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） きのう阿部議員への回答のときにもお話をさせていただいたと思いますが、ある程度の差額というのは生じます。それに対してお金が入っていくことというのは必要になってくると思いますので、それについて税金を使わないかという話になれば、税金を使わせてもらうということになると思いますので、その使い方というのが、阿部議員の質問のときにお話をさせていただいたように、ちょっと誤解が生じるような話もさせてもらったのかなということで、それについてそういうことがあるのであれば、私の考えというのはこういうものかというのをお示しさせていただいたと思いますので、それについては回答を時間もないですから控えさせていただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） 要は財政出動というか財源から出していくということなんだろうけれども、社会保障関連、これらというのは国のルールがとりあえずあって、また出したことによる交付金等のカットによるペナルティーというんですか、そういうものもあると思うんですけども、その辺の対処というのはある程度考えていらっしゃるのか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今おっしゃられていることというのはある程度理解しているつもりです。逆に言えば、そういうことが起きないように方法を模索していくというつもりでお話をさせていただいたので、逆にどういう方法でできるかということまで今のところ詰めていないところがありますので、その辺についてはこれから研究させていただく。どういうことができるかというのをまた考えていきたいというふうにはお答えしたつもりなので、そういう話で考えさせていただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） その辺のペナルティーが来ないようにやり方を研究していくということなんだろうけれども、この辺は総合戦略かどうかかわからないですけども、現時点で何かそういう方法というのはあるんですか。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 介護保険につきましては、もう制度的に要支援と要介護の方は明確に区分されていますので、保険制度の中では同等化というのは難しいと思います。もしやるのであればその差額を単独事業とかで持っていくというような、そのような形になるかなと。ちょっとまだ何も考えてはいないんですが、今ご質問いただいた中ではそういうように思いました。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） その中で事業としてつぎ込んでいく場合にペナルティーがある、そっちのほうはどうなんでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） それについて、今、小林議員にもお話しさせていただいたように、現行制度についての問題点とかそういうものもありますので、そういうことを含めながら、ちゃんとした形として検討させていただきたいというお話をさせていただいています。それ以上のものというのを幾ら言われたとしても出てこないと思いますので、その辺のところはすみませんけれどもご理解していただいて、そういう形で進めさせていただければなと思っていますので、よろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） 小林君。

（5番 小林 洋君登壇）

5番（小林 洋君） お約束ということだったので、その辺の何かいい策をもうお持ちなのかなということちょっとお聞きさせてもらったんですけども、いずれにしても町長になって1カ月ちょっとです。今研究したりいろいろ精査しているところなんだろうから、今後その研究がいいほうになるように、我々もいいことはぜひ協力していきたいと思いますので、ご活躍を期待しまして、終わりにさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） これにて5番小林 洋君の質問を終わります。

以上をもちまして一般質問を終わります。

休会の件

議長（林 喜美雄君） お諮りいたします。

明日12月2日から7日までの6日間は議案調査のため休会したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、明日12月2日から7日までの6日間は休会することに決定いたしました。

散 会

議 長（林 喜美雄君） 以上で本日の議事日程（第2号）に付された案件は全て終了いたしました。

本日、本会議終了後、議会全員協議会を開催いたしますので、出席のほうお願いいたします。

4日には、午前9時より総務文教常任委員会を、午後1時30分より厚生常任委員会を開催いたします。

5日には、午前9時より産業観光常任委員会を、午後1時より議会だより編集特別委員会を開催いたします。

6日には、午前9時よりまちづくり振興特別委員会を、午後1時30分より交流促進特別委員会を開催いたします。

また、最終日8日は午前9時より本会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。大変ご苦労さまでした。

（ 1 1 時 5 7 分 散会）